

塾生による

リレー・エッセイ(10)

私は...



岸 慶子
(連塾6期生)
(健塾7期生)

スターをしていた姉が癌で他界し、母が自分より先に子供が人生の卒業式を迎える寂しさを改めて痛感した姿を見た私は、小さい頃から目に見えないものに興味がありました。この時に尼になりたいと強く思いました。下の弟が就職で、護摩を炊く姿を大変母は喜んでいましたので、母の喜びを私は叶えたいと真言宗九州基山龍光徳寺広島分院で行いました。次に、山崎町浄土真宗の分院で語法授与。真言宗高野山御室派京都仁和寺にて得度。倉敷の由加山にて

1年間佐伯僧上の1番弟子として、学校、会社、深夜まで法衣を着て護摩を炊いていました。弟の仏縁の子を育てる姿を見て寺子屋をしたく、通奏低音の如く私の心の中に深く思いを寄せていました。

今、現在の学校も会社も全ての経験を経て出来上がりました。一人でも多くの関わる人が、全ての可能性を秘めています。生まれてくるには生まれてくる訳があり、どのような人生をもかけがえがなく、その人にしかできない尊いものがあります。その内に秘めているものを引き出し、夢の実現に向かって、花開き実を結ばせるために、この仕事が天性の仕事と思っています。人の苦しみが我が苦しみ、人の喜びが我が喜びと、人がスターになっていくその姿は、私の喜びそのものです。38億年かけ誕生し、出会う人々それぞれに意味があるということを確認しております。

人にはいろいろな生き様があり、両親や地域や今の時代の流れに合わせて、この世で生きていくために出会っている大切な同志であることを思い、改めて出会いに感謝し、これからも私が出来ることは微力ですが、皆様と共に前進していきたいと思ひます。末永くご指導頂きますようお願い致します。

健塾会員の砂場さん宅で

お花見&カラオケ大会

H24年4月8日(日)

春爛漫の四月初め、健塾5期生の砂場尚さんから「うちの周辺の桜が見事に満開となりました。皆様、花見に来られませんか。」というお誘いがMLで流れました。これにお応えした松畑理事長をはじめとする9名が、玉野市東児町の砂場さんのご自宅を訪問しました。



<砂場さんのご自宅前で撮影>

まず、辺り一帯を散策し、今を盛りにと咲き誇っている桜花を鑑賞しました。一面の菜の花は、原田泰治が描く日本の原風景を思わせ、ほのぼのとした

気持ちになりました。

続いて、砂場さんのご自宅南側の別邸2階で、美味しいお花見弁当を頂きました。その部屋は、砂場さんの設計による「カラオケルーム」となっていて、ステージや赤いカーテンも誠に凝ったものでした。輪番でマイクを握り、演歌あり、フォークソングあり、シャンソンありと、それぞれに個性溢れる歌声を披露しました。砂場さんの奥様には細やかにお気遣いをいただき、感謝申し上げます。



編集後記

連塾ニュース第10号発行!

1年間に3号の発行という遅々とした歩みですが、重ねること10号という記念の号を迎えました。毎号、巻頭言執筆をお願いしている松畑理事長には、いつも迅速に、毎回びつたりの依頼文字数でご返信いただき、有難く思います。また、ご寄稿の皆様方の快いご協力です。連塾ニュースが続いています。これからも、連塾からの情報発信として、活動の貴重な記録集として、会員の皆様方に役立つ情報誌にしていきたいと願っています。今後ともご協力をよろしくお願い致します。
(連塾1期生・角田みどり、田口琢磨)

特定非営利活動法人(NPO法人)

連塾ニュース

第10号

平成24年7月31日発行

(所在地: 〒700-0015 岡山市北区京山1-2-21
☎086-251-4615)

編集担当
角田みどり・田口琢磨



NPO法人連塾が大きく躍進!

~連塾の新しい主催事業に期待~

理事長 松畑 熙一



「つながり(連)」をキーワードとして、地域創生のリーダー養成塾としてスタートしたのは2005年4月でした。今年「連塾」開講から8年目、「健塾」開講から7年目、そして、「NPO法人連塾」が6年目となります。

これまでも、「桃太郎鍋・うどん」や「地域創生フォーラム」など多彩な活動をしてきましたが、今年度は、その礎に立って、新たな3種類の主催事業を展開しています。

一つは、地域で育む小学生のためのキャリア教育の「連塾寺子屋」です。「なりたい自分を見つけよう!」を合言葉に、「連塾」で研修を受けた地域創生リーダーを講師陣として、「大工さんになろう」「動物飼育員になろう」など10回の職業体験学習をします。岡山県備前県民局協働



中国学園「七夕際」にて学生たちを前に、坂本九の「上を向いて歩こう」を熱唱される松畑理事長 H24.7.4.

事業に提案して認められた事業です。

二つ目は、「おかやまイングリッシュビレッジ事業」です。これは連塾の一組織である「ローバル英語研究所」が実際のプログラムづくりや運営の主体となる事業で、実施主体は岡山市教育委員会と中国学園大学・中国短期大学で構成する実行委員会です。外国人と英語で話す活動が中心で、8月に「宿泊留学体験in犬島自然の家」を、11月に旧福谷小学校で一日留学体験を、小学生対象に行うものです。

三つ目は、岡山県のモデル事業に認められた「京山駅西アクティブカルチャーゾーン事業」です。京山駅西を「新しい公共」エリアとし、地域住民のニーズに基づいて、環境にやさしい電動アシスト自転車の導入実験を実施するものです。連塾が代表構成員となり、岡山市と7団体(伊島学区連合町内会、岡山県青年館、池田動物園、等)の9団体が協議体を構成して実施するものです。

このように、NPO法人連塾がいろいろな方々のご支援とご協力により大きく躍進し、連塾創設期10年の「花」を咲かそうとしており、今こそ「連」の原点に立って協働したいものです。

事務局から

京山駅西アクティブ・カルチャーゾーン事業について

平成24年度岡山県新しい公共の場づくりのモデル事業に、私たち連塾が代表構成員となる協議体が申請した「京山駅西アクティブカルチャーゾーン事業」が大型予算で採択となり、9月より事業スタートいたします。

内容は京山駅西地域における文化・科学・子育てを中心としたフィールドの相互連携により、地域課題を解決し、「新しい公共エリア」を創出するもので、主たる事業は、1)電動アシスト自転車レンタル事業、2)京山アクティブカルチャーゾーン地図情報の制作、3)コミュニティビジネスモデル計画の立案、です。

今後、連塾の会員の皆様にも協力いただく事業になりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(連塾3期生・安田年一事務局長)



新入塾生よりひとこと



福原 史子
(連塾8期生)

はじめまして。8期生の福原史子と申します。教育学(外国語教育・モンテッソーリ教育・家庭教育)を中心に大学で教育・研究活動をしています。職場も自宅も京山アクティブカルチャーゾーン内にあります。小学生のための外国語活動の実践をしたく入塾しましたが、わずか3か月の間に、松畑先生、角田先生をはじめ多くの方々と出会い、つながり、幅広く学び合っていることに驚いています。まさに「連」を実感し感謝しているところです。皆さまに助けを頂きながら自分を見つめ、地域のために何が出来るか考えて参ります。どうぞよろしくお願い致します。



伊賀 功悦
(健塾7期生)
(連塾1期生)

私の好きな言葉に、「竹は節目で伸びる」と言う格言があります。この言葉を具体的に実践したのは30歳の時からで、5年ごとに何か節目の付く事を実践しようと思ってきました。今回、連塾より健塾の塾生として再スタートすることにより、沢山の新しい大事な出会いが生まれてくると信じています。そんなポジティブな考え方が、健康に一番と思っています。健塾の先輩諸氏との交わりの中で、皆と一つになって何か、メイドイン健塾として社会に発信できればと思ひます。最後は冥途インヘブンでカーテンを閉めましょう。

5月から～地域で育む小学生のためのキャリア教育～



NPO法人連塾では、若者に「ニート」や「フリーター」が増えている社会問題を少しでも解決するために、子どもたちが小学生の時から正しい職業観や勤労観を身につけ、自分の描く将来の夢(職業・仕事)に向けて最大限の努力をし、その夢を実現できることを願って、小学生のためのキャリア教育を行う「連塾寺子屋」を今年度より開設しました。この事業を岡山県備前県民局の協働提案事業募集に応募し、安田・角田両副理事長が備前県民局に出向き、プレゼンテーションを行った結果、見事、平成24年度岡山県備前県民局協働提案事業として採用され、助成金もいただけることとなりました。この連塾寺子屋事業が、連塾で独自に主催する事業の大きな柱の一つとなり、また、連塾で養成された地域創生リーダーが輝いて活躍する場として、大きく育つことを期待するものです。

連塾寺子屋には岡山市内の小学生30名が入塾し、5月～2月まで毎月1回、「大工さん」・「通訳者」・「書道家」・「動物飼育員」・「芸術家」・「消防士」・「音楽家」・「農業家」など様々な職業の体験活動を取り上げて、「**なりたい自分を見つけよう!**」をテーマに、10講座を実施します。これまでに、3回開催され、講師やスタッフとして参加した連塾・健塾会員の皆さん方は、寺子屋塾生の小学生たちの生き生きとした表情や振る舞い、職業理解や将来への夢など豊かな感性で綴られた感想文に感動しています。

第1回「なりたい自分を見つけよう!」(開講式) 平成24年5月27日(土)

第1回は、「開講式」も兼ねており、**松畑照一理事長**が講師を務められ、「なりたい自分を見つけよう!」を演題に、子どもたちに話しかけられました。「私は、なぜ英語教師になったか」「エジソンの9000回の失敗」など、子どもたちは熱心に聴き入りました。続いて、パワー・ポイントにより、「菅直人・浅田真央・イチロー・山崎直子」等の知名人が小学6年生に描いた夢を、努力を重ねてその後実現させた話を例に「将来の夢を描き、努力することの大切さ」を角田みどり連塾1期生が伝えました。この日は、岡山市内で近年は、秋より春に実施が移行している「運動会」と重なり、出席者は約半数でしたが、感想文には、松畑理事長のお話に大きく心を動かされた子どもたちの素直な文章も多く見られました。



第2回「大工さんになろう!」(4畳半木造一軒家を建築) 平成24年6月9日(土)



第2回目は、**安田年一連塾3期生**が講師となり、寺子屋の塾生たちが、協力して、4畳半の木造一軒家を建てました。建築に先立ち、安田講師より、「木造の優れている点」についての講話があり、木の上での立位体前屈や五重塔を揺らして耐震構造を見せる場面では、子どもたちから歓声が上がりました。続いて、会場となった「木になる情報館」2階南側の屋上で、ヘルメットをかぶった小学生たちが力を合わせて、梁を建てたり、壁や窓を取り付け、最後に屋根を付けて、木造の一軒家が完成しました。感想文の中には、「大工さんの苦勞がよく分かった。大工さんの仕事に興味を持った」という感想も見られ、職業理解につながりました。なお、当日の取材記事が山陽新聞に載りました。

第3回「通訳者になろう!」(通訳者に必要な資質をUP) 平成24年7月21日(土)

第3回目は、**小笠原ヒロ子連塾5期生**が講師となり、子どもたちに通訳者になるための基本的な資質や能力を身につけるためのトレーニングを行いました。小笠原講師は、岡山県では通訳の先駆けとして、実績を積んでおられ、最近では、ディズニー・シーの工事現場、血管手術の医療現場での通訳の仕事も手がけられ、国際会議の同時通訳士など、幅広い分野でご活躍です。この講座では、英語学習かと思って参加した寺子屋塾生が多かったのですが、「言葉を明確に話す」「人の発言を要約して話す」「辞書で調べたことを人に伝える」など、むしろ「日本語」の学習であったと言っても過言ではありませんでした。中には、流暢な英語を話す帰国子女の塾生もいて、参加者を驚かせました。いつも、連塾・健塾会員の皆さんが10名近くスタッフとして参加していただき、受付や子どものお世話をしてくださいます。本当に感謝です!



充実しています連塾・健塾月例会

月例会には、毎回1時間、松畑理事長からのご講話がいただけます。
4月例会 今年度、新入塾生17名を迎えました!
 平成24年4月21日(土) 13時～16時 会場: コミュニティプラザ連塾

NPO法人連塾の平成24年度新入塾生として、連塾15名、健塾2名の申し込みがありました。中には、赤穂市や明石市などの県外や成羽、玉野といった県北・県南の入塾者も見られます。年齢的にも、これまでのややご高齢の方から中堅若手の方々も入塾してくださいました。特に、奥山勝敏さんには他団体での活動実績から、入塾早々に事務局員の一人として加わっていただき、インターネット等による広報活動にも従事していただくこととなりました。大変有り難く思っています。どうぞよろしく願いいたします。また、連塾8期生の姜英徹さんや福原史子さんには、早速NPO法人連塾の一つの活動組織である「ローバル英語研究所」に入所していただき、中心的な活動にも加わってくださっています。17名の皆様方が一日も早く、連塾内に居場所を見つけられ、充実した活動を展開されますことを祈念しています。

- ### 事務局紹介
- 事務局長 安田年一 (副理事長兼務)
 - 事務局員 池本行則、井上貴子、奥山勝敏
 - 会計 森 正弘

あの藤井裕也くん(連塾1期生)が 美作市職員として実践発表を行いました!

7年前、連塾1期生として入塾された藤井裕也さん(当時は、岡山大学の学生)が社会人となられ、現在は美作市の特別職員(地域おこし担当)として取り組まれている活動を披露してくださいました。高齢化率56%という美作市上山地区に、荒廃した棚田の再生に取り組んでいる**MLT(ムラト・・・「村の人になる」という意)**という合同会社があります。今年2月、これを立ち上げられたのが**井筒耕平さん**で、彼がリーダー役を務め、20代から40代の若者数名が仲間となって、棚田米の稲作面積の拡大など、地域おこしに熱心に取り組まれています。藤井さんもMLTの一員として、農業体験教室、「古民家Cafe & Bar いちよう庵」・山村シェアハウス「柗屋」の運営、太陽光発電・小水力発電・風力発電などの自然エネルギーの実用化、小規模自伐林業を通しての持続可能な林業モデルの展開、間伐材を粉砕したチップの販売、手仕事の復権などを手がけられており、瞳を輝かせて次々にユニークな企画を語られました。生き生きとした彼の表情から、いわゆる「限界集落」と呼ばれる中山間地域に新たな「希望」を創生しておられる様子が伝わってきました。藤井さんのこの地域創生リーダーとしてのたくましい成長ぶりに松畑理事長をはじめ、多くの塾生の皆さん方が胸を熱くしました。まさに、NPO法人「連塾」が取り組んできた地域創生リーダー養成の1つのすばらしい結実です。



地域創生リーダーとして堂々と発表された藤井裕也さん

7月例会 今井 勉氏が演奏される パンフルートの音色に酔いしれました!

7月例会は、連塾・健塾の合同例会として、パンフルート演奏者の今井勉氏を迎えました。今井氏は、岡山市高島学区のご出身で、大学卒業後のサラリーマン時代、38才の時に「うつ病」を患い、失業を余儀なくされました。約1年間の療養を経て完治され、社会復帰のための情報収集・思考錯誤の毎日をご過ごされていた中、吉井川河川敷に生ずる雌竹で「今までに見たこともない」楽器を作られました。その楽器が世界的には「パンフルート」と呼ばれている楽器であることが分かり、何よりその「そよ風」のような優しい音色にすっかり魅了されて、この楽器のプロ奏者になられたという経緯の今井氏です。以来、施設での演奏などで腕を磨き、CDを制作・販売するようにもなられました。軽妙な岡山弁でのトークと澄んだ音色のパンフルート演奏に参加者は全員うっとりとして聴き入りました。演奏後の意見交換では、「実は私もうつ病だった」という会員の告白もあり、話し合いも深まりました。



唱歌「ふるさと」を演奏中の今井氏